

マイナビ「MY FUTURE CAMPUS」主催の企画アイデアコンテスト 経営学部2年生1チームが「課題解決プロジェクト」で入賞

～「食品ロス」をAI機能搭載の冷蔵庫で解決する企画書を発表～

文京学院大学（学長：櫻井隆）は、マイナビ「MY FUTURE CAMPUS」主催の企画アイデアコンテスト「課題解決プロジェクト 2020 season2」にて、経営学部2年生（国際経済学研究ゼミナール）の5名が2チームに分かれて参加し、チーム「ユカリーズ 46」が優秀作品全20チームの内、上位5チームに入賞したことをお知らせします。

「課題解決プロジェクト」概要と参加の経緯

本コンテストには、マイナビ「MY FUTURE CAMPUS」が主催する、企業課題をテーマにしたグーグル合同会社提供の出題テーマ「AIを活用し、あなたが関心のある社会課題の解決策を提案してください。」に興味を持ち、参加を決めました。2年生前期のゼミ活動がすべてオンライン実施だったこともあり、グループ活動になかなか活気がつきにくい中、4ヵ月という短期間で社会的なテーマについての確かな情報を収集・分析し、論理的に考え抜く力をつけることを目標として、このコンテストにチャレンジしました。

コンテスト挑戦にあたっては、課題が発表された7月から、AIについての基礎知識、特にAIが機能するためのデータ取得、AIの活かし方についてなど時間をかけて学習をはじめ、実際に現在AIが社会でどのように活用されているかという事例研究を5名協働で行いました。9月には2チームに分かれ、1チームは「災害時における高齢者の避難」、もう1チームが『「食品ロス」の減少』という課題解決にAIを活用するという企画を検討し、それぞれコンテストに応募しました。

入賞チーム『「食品ロス」解決をAI冷蔵庫で！』の発表内容について

食品ロスのうち、家庭内食品ロスを減らす可能性を探り、冷蔵庫にAI機能を搭載して食品管理を行うという企画書を作成しました。食品の傷み具合を画像で取得し、傷み具合の早い食品を優先的に使って作れる料理レシピを提案する「AI機能つき冷蔵庫」という企画において、審査員からは「どのように食品のデータを取得し、AIに処理させるのかまでを提案できたこと」に評価をいただきました。また、時間がない中で、大学生を対象に、食品ロスに対する意識調査とAI機能付き冷蔵庫に対する興味についてのアンケートを実施したことも評価を受けました。

AI活用の詳細-4

図8

		1つ目の分類AI					
		麺類	肉類	魚類	卵類	野菜類	その他
2つ目の分類AI	1	○					
	2				○		
	3			○			
	4		○				
	5						○
	6						○

- 2つのAIを組み合わせて用いることで食品ロスに対応
- 1つ目のAI：種類・個数を判別
- 2つ目のAI：傷み具合を判別
この2つのAIを専門化AIとして活用
- 図8の場合は点線を越えたら警告、太線を越えたらアウトと通知を出すように仮定。食品の種類やレベルはAIの強化学習によっては何力通りにも増やせる。
(例えば、人参や卵は半端であり、豚肉は傷みかけ、卵は食べられない状態になっている。)

入賞した『「食品ロス」解決をAI冷蔵庫で！』企画書の一部

◆参加した学生からのコメント

入賞チーム(メンバー:松本将平、鈴木優、星野佑騎 企画テーマ:「食品ロス」解決をAI冷蔵庫で!)



- ・今回のグループワークで連携作業の大切さを学びました。
- ・物事に対して積極的に作業を行うことが大切だなと実感しました。
- ・オンラインならではの難しさもありましたが、グループワークの面白さや難しさ、人と意見を交換する事の重要性や楽しさ等、多くの事を学べたと感じています。

参加チーム(メンバー:青木一真、小松純太 企画テーマ:AIを使った高齢者の避難経路)

- ・しっかりと時間をかけて情報を集め、精査することがとても重要だとゼミの先生もおっしゃっていて、そこを重視し、突き詰めることができました。人数が少なく、非常に大変でした。いい経験になり良かったです。
- ・この大会で得た経験は、今後のゼミ活動ではもちろん、社会に出たときにも必ず役に立つと考えています。